貿易論解題

- 貿易論の特殊性
- 国際ビジネスの研究課題
- 国際ビジネスの分析枠組み
- グローバル競争の意味

1. 貿易論の課題:①実物理論

① なぜ貿易が行われるか

⇒ 貿易原理:自由貿易vs. 保護主義

② 輸出入されるものは何か

⇒ 貿易構造

③ 国際市場での価格は

⇒ 価格理論＝ミクロ経済学

貿易論の課題：①実物理論

④ 貿易量はどのくらいか

⇒ 通商問題（貿易摩擦）

⑤ 貿易による影響

⇒ WTO

⇒ セーフガード、関税政策、補助金

貿易理論：比較優位の原則

貿易論の課題：②貨幣理論

① 貿易決済の仕組み
- 貿易商務論ーインコタームズ

② 貿易による資金循環
- 貿易の永続性ー国際収支

③ 外国為替レートの決定

④ 為替リスク回避

貿易論の課題：③政策

① 政策手段とは

⇒関税、非関税障壁（NTB）、補助金etc

② 政策が貿易諸変数に及ぼす影響

③ 政策目標の正当性

④ 貿易政策による負の効果

⑤ 政策比較

2. 世界を見る眼

- 統計で見る世界経済
  - 誤解と誤謬、思いこみの排除
  - 歴史的変化、時系列分析の必要性
- 多角的視座
  - 政治／軍事
  - 経済
  - 文化／宗教／民族
  - 科学技術
  - ビジネス

3. 世界経済と多国籍企業

- 今日の世界貿易は，世界総生産の約25％を占めている，といわれている。
  - 2009年世界国内総生産額 60,817.6（10億ドル）
  - 2009年世界の貿易額　13,894.8（10億ドル）22.8%
- 世界貿易の約70％は、先進工業諸国によって占められている。
  - 2009年OECDの貿易額　8,856.1（10億ドル）　（64%）

（データ出典　OECD）

3. 世界経済と多国籍企業

- 世界総生産の約３分の１以上は、多国籍企業によってなされている。
  - FORTUNE GLOBAL500 売上高9,268（10億ドル）
    ＝世界GDP比19.4％
- 世界貿易の半分は、多国籍企業によってなされているといわれる。

4. 国際ビジネスの研究課題

① 自由貿易が効率的である理由及び国際貿易に従事している企業の活動メカニズム

② 関税が非効率である理由と企業の対応

⇒ 非効率性＝ナショナル・コスト

③ 対外直接投資(FDI)が発生する原因

⇒ 市場の不完全性、環境的制約要因

⇒多国籍企業（MNE）の成立要件

4．国際ビジネスの研究課題②

⑤　輸出、ライセンシング、FDIの選択

⇒外国市場参入理論

⑥　FDI規制

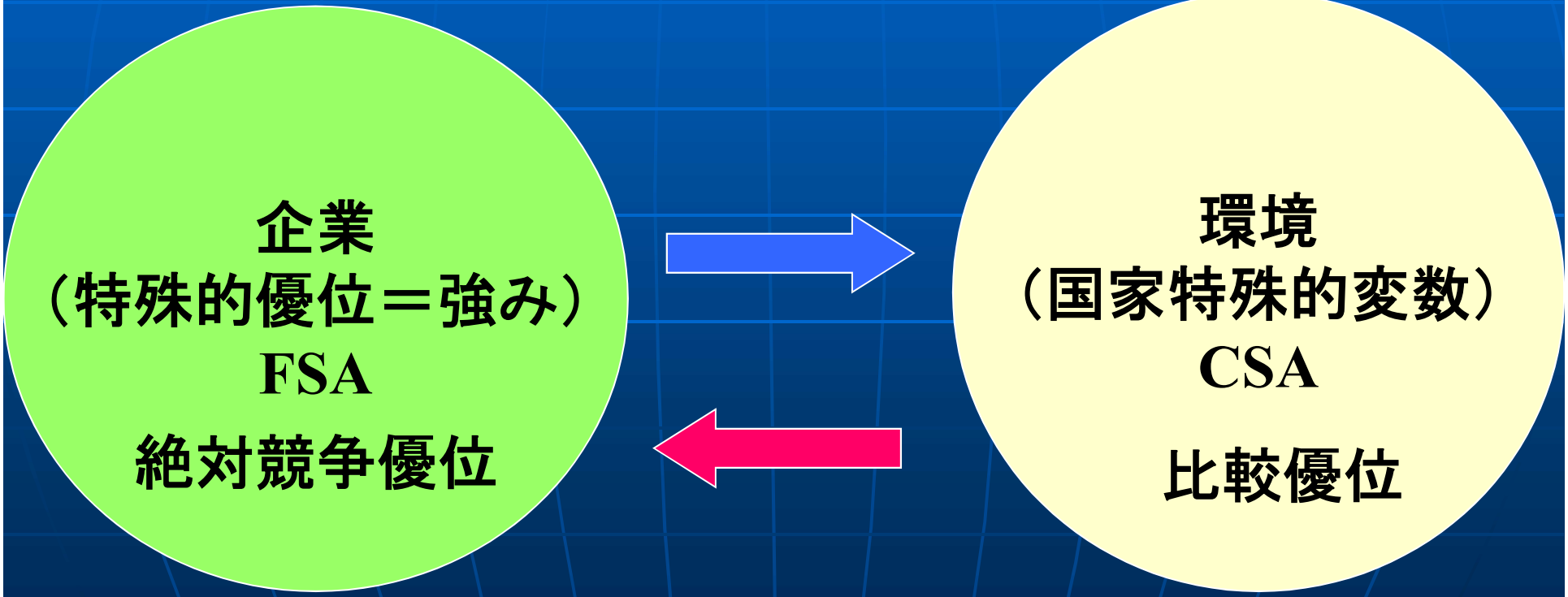
⑦　外国為替レートに対する企業の対応

⑧　多国籍企業（MNE)が生産、マーケティング、財務及び人的資源の活動を効率的に展開する方法

５．国際ビジネスの分析枠組み

- 国際ビジネスの分析ファクトは何か
- 企業の付加価値活動とは
- 企業系を取り巻く環境要因
- グローバル競争の変化
- 世界経済の認識
- グローバリズムとリージョナリズム

6. 国際ビジネス活動の構図



両者の相互作用を解明する！！

企業特殊的優位

- 企業が所有あるいは利用可能な内部資源。
- 具体的には、資本、技術ノウハウ、製品・サービス、人材、（原料・販売市場に関する）情報などを指す。
- 企業は、それらの所有優位をグローバルな視野にたって効率的に利用し、その商業的（営利）目的を達成する。
- Firm　Specific（Ownership）　Advantages＝FSAあるいはO特殊的優位ともいう。

国家特殊的変数

- 国々がもつ土地、天然資源、人口（労働）などを指す。
- それら要素の賦存状況（豊富にもつか、希少であるか）によって、比較優位が異なる。
- したがって，「変数」である。
- 今日では、伝統的な要素に加えて、その国で創造された資産もこれに含まれる。
- Country　Specific（Location）　Advantages あるいはVariables＝CSAという。

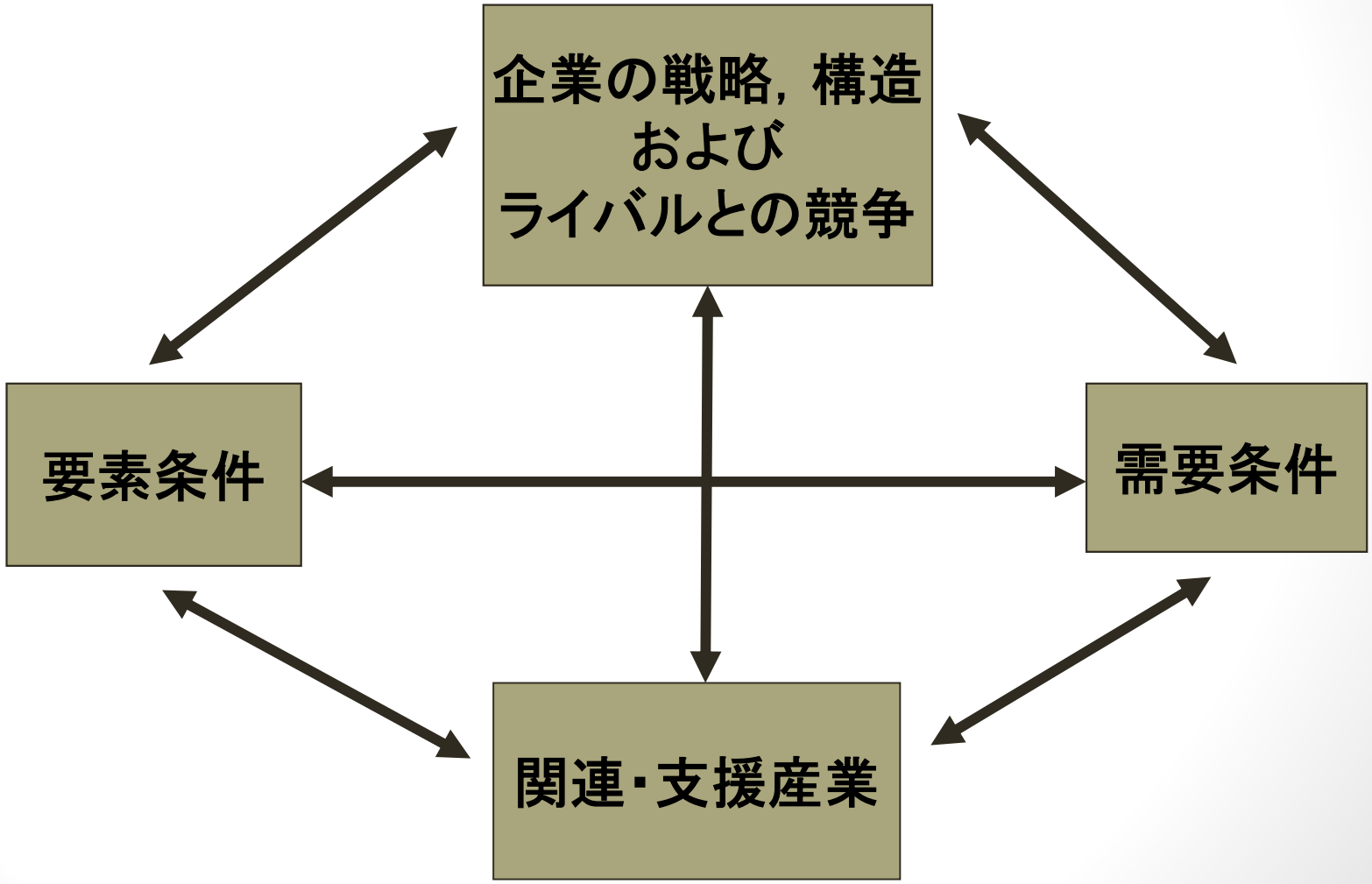
７．ビジネス＝企業経営活動とは

さまざまに定義することができる。
たとえば、

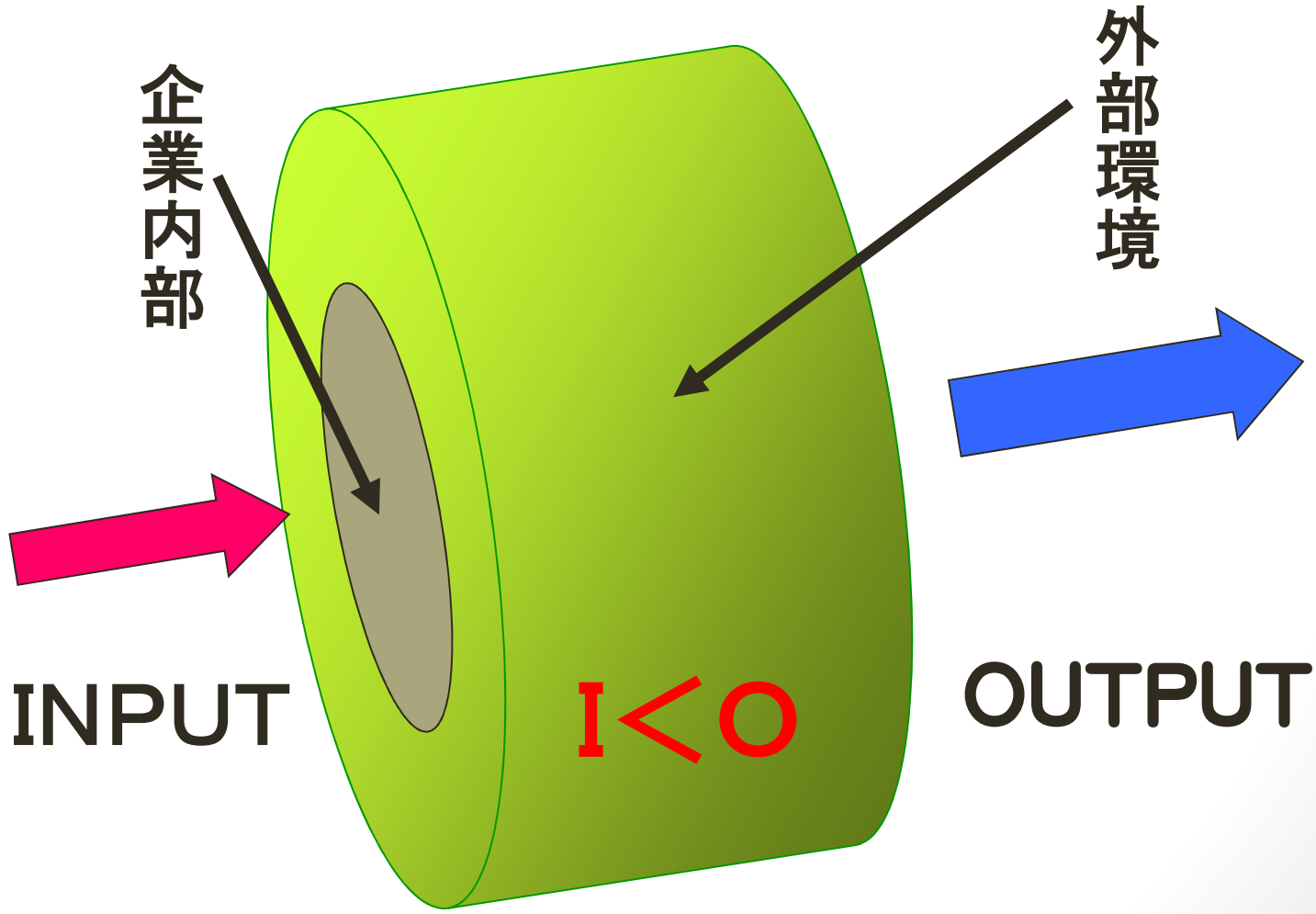
「付加価値活動の連鎖である。」
（Ｍ．ポーター）

「インプット・アウトプット活動である。」
（Ｒ．ファーマー）

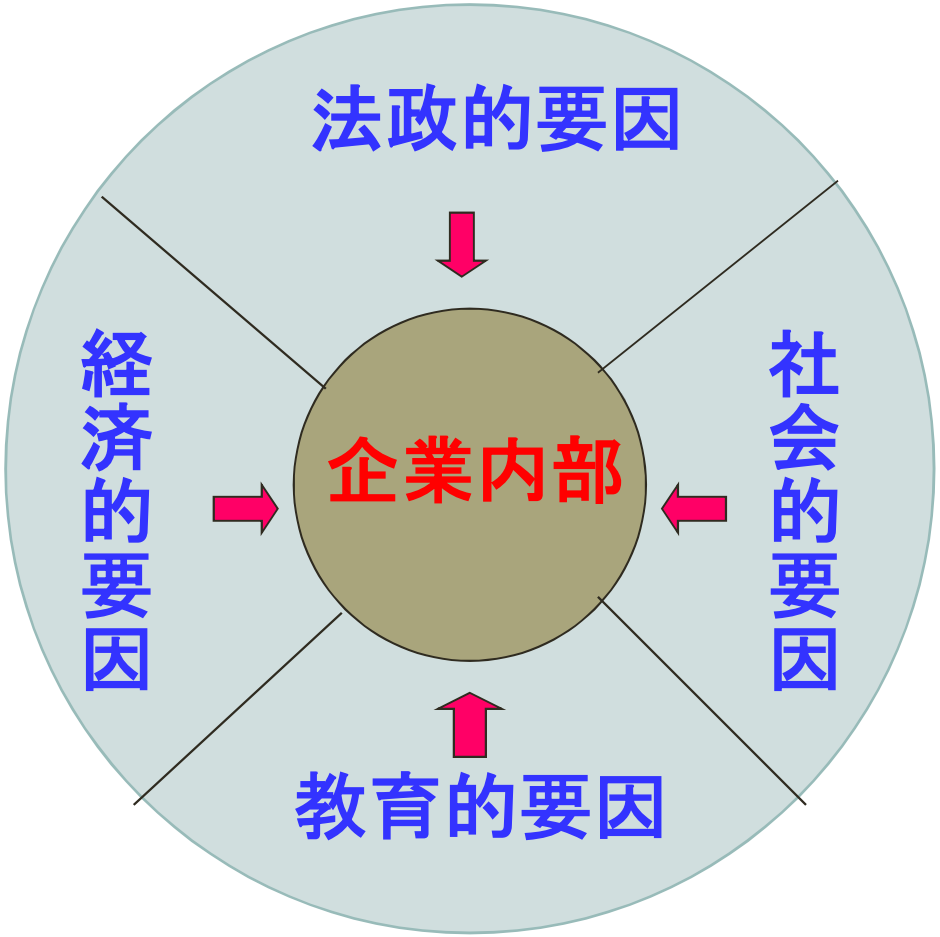
ポーター
国家の優位の決定要因



ファーマーの定義のイメージ図



外部環境（制約）要因



企業内部（経営資源）と諸機能

企業内はブラックボックス!!

8. グローバル競争の時代

- グローバル競争の時代とは、激変の時代である。
- 環境変化の特徴:

  未曾有の　スピード

  空間的拡張

  大量

  変質

- Turbulance＝乱気流（ルールなきルール）、すなわち新しいルールのもとでの競争の時代！

グローバル競争の時代

想定外の…

- リーマン・ショック
  - “Too big to fail bank”の誤謬
- ギリシャ・ショック
  - 財政破綻ーデフォルト
  - スペイン・ポルトガル危機ーEUの限界
- 原油、食料価格の高騰
  - 産油国の民主化運動
  - 投機マネー
- 東日本大震災
  - サプライチェーンの見直し
  - 電力危機⇔脱原発
- 中国反日デモ

グローバル競争の時代

何が起こるかわからない＝まさかの時代

ポスト・バブルで崩れた3つの神話

1　株・土地は下がらないという神話

2　消費は常に拡大するという神話

3　日本的経営の3種の神器といわれた
　　終身雇用、年功序列賃金、企業内労働組合、および
　　完全雇用、JIT生産方式は磐石だという神話

あっという間に、見事に、崩れた!!

グローバル競争の時代

変化をもたらした7つの要因

- グローバリゼーション（国際化）
- 製品ライフサイクルの短縮化
- 技術革新の加速化
- 技術普及（伝播）の迅速化
- 競争の激化と多様化
- 産業のボーダレス化
- 規制緩和

（出典：**J.**パイン（**1994**）『マス・カスタマイゼーション革命』）

グローバル競争の時代

二律背反、お互いに矛盾することが同時に起こり、要求される時代！！

グローバル重視	ローカル重視
低コスト	高品質・差別化
効率的	革新的
規模の経済	範囲の経済
市場原理	公平原理
透明性	秘匿性

9. 近年の学会動向（経済系）

* 日本貿易学会
  * 転換期にある世界貿易体制と日本の選択(2011)
  * 東アジアをめぐる経済統合と新しい国際分業への展望

* 国際経済学会
  * 岐路に立つ日本の通商戦略：新たな開国への道筋(2011)
  * サステナビリティーと国際経済(2010)

近年の学会動向（ビジネス系）

* 国際ビジネス研究学会
  * 国際ビジネスとイノベーション(2011)
    * 2011年10月22日（土）～23日（日）　富山大学にて
  * 新時代のグローバリゼーションと持続可能性(2010)

* AIB(The *Academy of International Business*)
  * International Business for Sustainable World Development(2011)
  * International Business in Tough Times(2010)

学会動向から見るキーワード

転換期（Turning Point）

・市場環境の激変、複合的課題の発生

持続可能性（Sustainability）

・経済成長、生活維持、環境　　etc